

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400129		
法人名	株式会社アガペ		
事業所名	グループホームアソシエ飯倉		
所在地	福岡市早良区飯倉5丁目21-4		
自己評価作成日	平成26年12月1日	評価結果確定日	平成28年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	平成26年12月18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

地域の方々にアソシエ飯倉を知って頂き、将来、安心して利用できる施設を目指し、利用者が楽しく過ごせるような憩いの場所でありたいと思っています。20代から60代まで様々な年齢層の職員が働いており、それぞれが創意工夫して利用者のケアが来ている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームアソシエ飯倉」は、福岡市のモデル施設として開設し、小規模多機能と併設した事業所で運営法人は、市内にサービス付高齢者施設やデイサービス、アソシエ和白等、数箇所の福祉施設を運営している。全体会議、リーダー会議、新人のフォローアップ研修等によっても継続的な教育も図られ、開設から3年経って、職員も安定してきて、各係りの担当が自発的に動けるようになってきた。「アソシエ」が示すフランス語の仲間という意味の通り併設の小規模ともよく連携して、スタッフ間も一体的な協力体制がとられている。日頃から入居者の思いを元に寄り添い、目線を合わせた対応で優しい言葉で働きかけるように心がけている。又それぞれのレベルに合わせ、歩行訓練などの個別のナリハビリや、ゴミ集め、血洗いなど自分の役割を持ってもらっている。今後も入居者、職員ともに能力を発揮し生き生きと活動し、大いに発展していくことが期待できる施設である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	就業始めに、利用者様方にアソシエ飯倉の理念を職員全員で唱和しています。今日一日の理念として、職員同士で、共有して実践しています。	理念は玄関とフロアに掲示され、毎朝の申し送りで唱和している。アソシエ飯倉(グループホームと小規模)としての独自理念で「人、地域とのつながり・入居者と共に一人一人の思いに寄り添い、心温かに過ごしていただく」事を掲げている。実践に関して気付いた時は、その都度申し送りやミーティング等で話し合っており、外部研修で理念を振り返る機会を持ち職員への伝達も行った。	既に自己評価に取り組んでいるが、理念に対してどのような行動をしたかという項目を自己評価の中に加えて、管理者と職員が、その理念を共有して実践につなげてはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会費を納め、夏祭り等に利用者様と共に参加しています。入所希望の方以外も、グループホームとはどのような所か見学に来られる方もいる。	以前、花の差し入れや、PTイレの寄付などもあった。親子で見学に来て小学生が夏休みの研修課題で取り上げてくれたり、小学校の夏祭りに入居者と一緒に参加をしている。小規模と一緒に中庭で毎年夏祭り開催し、地域の方にはポスティングをして案内、参加もしてもらっている。モデル施設として、他施設、事業所の見学を受け入れ、地域ボランティアの慰問も多く、歌、踊り、ハンドベル、など定期的に来訪されている。	以前、外部の依頼から認知症啓蒙の活動をしたことがあったが、今後も継続して、事業所が中心となった情報発信の活動がなされることにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々のグループホーム見学や介護についての説明など、交流することで地域の方の窓口になれるよう目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、会議を開き、利用者家族の不安や、悩みを引出、地域包括、自治会等相談に乗って頂く。そこで出された問題については次回の研修に取り入れています。	小規模と同時開催し、市役所、地域包括、自治会長、民生委員などが出席する。入居者も出席し、家族にも案内するが参加は少ない。行事報告、状況報告を行っており、運営推進会議であがった話は、ミーティングで報告し、全職員で共有し周知するようにしている。	運営推進会議の議事録の閲覧公開や、欠席されたご家族に議事録を郵送したり、行事との同時開催など、ご家族に運営推進会議への理解を深めてもらう工夫がなされることにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市から見学に来られ、事業所の実情や状況を知って貰っています。事業所のサービスがスムーズにいくよう、連絡を密にしています。書類は郵送で行わず、窓口を直接訪ねる事でより連携を深められるようにしている。	市のモデルケースをしている関係で、見学依頼や他事業所や視察受け入れも行っている。介護申請や事故報告では、その都度窓口まで持参し、地域包括への空き状況の報告から紹介をもらったこともある。生活保護の方もいるため、保護課とは連絡・相談を密に行っている。各行政への電話や、必要時の訪問により、日頃から相談しやすい関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来、身体拘束をしなければいけない利用者はいませんが、利用者様の落ち着きがなく、不穏行動をとられるような時はしっかりと見守り、思いに入れるように寄り添い一緒に行動します。	玄関施錠は夜間のみで、帰宅願望のある方には、無理に引き止めず一緒に付き添い、ドライブ等でも対応している。今まで離脱者もなく拘束行為もなかった。人感センサーの利用は、家族に同意を得て夜間のみ使用している。同意書や経過支援様式の準備はあり、新人研修では身体拘束の研修を行っている。	新人研修や安全運転の研修は出来ているが、年間の研修計画をたて、定期的な研修の開催を行い、スピーチロックを含めた、身体拘束の理解の徹底を望みたい。

H26自己・外部評価表(GHアソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会をミーティングで設け、日頃からの状態観察、見守りに努めています。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングで日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持った。該当する方もあるので、しっかり学び、関わる方々と話し合い、活用します。	昨年からの制度に関して、具体的な事例を通して、ミーティングで話し合いを行った。入居者で成年後見制度の活用に関わった方もいる。日常生活自立支援を利用している方もおり、事例を通して理解を深め、社会福祉協議会と協力して活用している。職員も一般的な理解は出来ている。	現在、制度を活用されている入居者もいて、職員も制度の理解が出来ている。今後の対応や説明に備え、制度の資料やパンフレットの準備をされる事が望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は重要事項説明書、契約書を十分理解した上で、説明しています。解約、改定時にも書面で分かりやすく説明しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で利用者や家族が包括や自治会長、民生委員等、外部者に意見、要望を表せる機会があり、運営に反映させています。内容は記録に残し、スタッフがいつも閲覧できるようにしています。	日頃から面会者も多く、その時に意見や要望を聞いており、個別の連絡帳もある。意見箱の設置も始めたが意見提出はなかった。利用者や家族から聞き取った意見や要望は、日誌の申し送り欄に記載し、全職員で確認チェックをしている。あがった意見要望は話し合っ、面会時に口頭で結果報告を行っている。	利用者や家族からあがった意見・要望を、日誌の申し送り欄で、確認チェックをされているが、申し送り事項の共有方法の徹底や見直し等、検討されることに期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は申し送りノートや対応変更ノートの書面に記録しています。職員間の連携を円滑にできるよう努めています。	毎月1回のミーティングがあり出席できない職員からも意見を書いて提出してもらっている。係分けがあり、それぞれの係から意見を出し合い、日頃も気がついたら管理者に提案している。ユニット毎のミーティングもあり、利用者のケアカンファやプランの見直しをしている。各ユニットに医療連絡ノートがある。職員の1年間の自己評価もある。	連絡手段として、医療連携ノートや日誌の申し送り欄等があるようだが、ユニットごとにバラバラなので、情報共有の方法を統一される事が望ましい。又、1年間の自己評価はされているようだが、自己評価のフィードバックや全体への個別目標など、目標を持って勤務できるように検討されることに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のレベルアップを図る為に、会社内部研修や外部研修へ参加しています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	現在の職員の年齢状況は幅広く、20歳から60歳までです。職員皆、一人一人が、その能力を発揮し、利用者と対峙出来、生き生きと勤務できています。新人職員には新人職員研修で人権教育、接遇の研修を行っています。	男女のバランスもよく、年齢も幅広くそれぞれの特技を生かして、その能力を発揮して働くことが出来ている。スタッフの役割も慣れてきて、備品の発注の確保も安定してきた。スタッフルームもあり、休憩、時間の確保も出来ており、職員間のコミュニケーションも上手くいっている。今月から合同でも会議を行うようになった。資格取得者もあり、シフト調整もなされている。	研修は管理者が行って、伝達されているようだが、全職員に外部研修の案内や参加の機会が確保できるような取り組みが望ましい

H26自己・外部評価表(GHアソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月のミーティング、勉強会で、接遇、人権教育について、研修をおこなっています。	管理者、実践者研修で人権に関して、管理者が学んできたことをレポート提出をし、毎月のミーティングの時に伝達を行っている。又日頃のケアのあり方の中で人権に関しての振り返りも行っている。	管理者が研修に行き伝達を行っているが、資料の回覧や、職員の外部・内部研修の計画を立て、事業所としての啓発活動に取り組まれることに期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修、アソシエグループ全体で介護研修、管理者研修、外部研修に積極的に参加できるようシフトを管理しています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への訪問をすることで、ネットワークづくり、サービスの質を向上させています。機会があれば他施設との食事会や交流会も検討しています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入居・契約・アセスメント・担当者会議などを通して、ご本人様の要望にお応えできるようにしています。入居の際、ご本人様のご実家に足を運び、信頼関係を強めるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階で、家族の要望・不安などに耳を傾けご家族と共に、問題解決していくよう心掛けております。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の要望・ご家族の要望を把握し、必要なサービスを提供できるよう努めています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の誕生日はお祝いを利用者皆と祝い、共有しています。日常においても会話にて傾聴しております。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と利用者の絆が深まりますよう、事業所内で楽しむ機会を設けています。		

H26自己・外部評価表(GHアソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出を通じて、近くの馴染みの場所や福祉ボランティアの方との交流を持ち、地域の活動も参加できるように支援しています。	入所時には、アセスメントの時にご要望などを聞き、本人がこれまで大事にしてきたことや、馴染みの人・場所などを聞くようにしている。入居前に教会に行っていた方で、今も継続して教会に行ったり来訪を受けることもある。行きつけの美容室への支援では家族の送迎があり、知人・友人への電話支援や面会もある。入居当初、帰宅願望の強い方に自宅への外出支援も行った。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、出身、生活歴など幅広く考慮し、個人個人が会話できるように、時にはスタッフが間に入って、取り持ち、支え合えるような支援につとめています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、これまでの関係性を大切に、本人様が動揺されないよう、相談や支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりや、スタッフとの会話等から思いを尊重し、何度も話し合う機会を作ります。そして暮らし方の意向を把握し、職員間の情報共有に努めます。	入所時のフェイスシートは、ケアマネージャーが担当で記録し、入居後、分かった情報などは、その都度手書きで追記している。ミーティングなど日頃から、担当からの意見を聞いて、情報を共有している。意思疎通の難しい方には、日頃の表情や会話の中から思いを汲み取り、家族の要望や意向を聴き取って把握するようにしている。	入居時のフェイスシートに、手書きの追記はあるが、介護保険の認定更新時の見直し等、定期的な更新をされる事が望ましい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方を本人様にお聞きしたり、ご家族に聞き、支援経過の把握に努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録を綴り、持つる能力の把握に努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様面談しアセスメントを行い、よりよく暮らすため、ケアプラン作成を行い実行しています。月1回のミーティングで職員間の情報把握にも努めています。	職員一人に入居者1人から2人の担当制にしており、居室・衣類・ミーティング時の状況報告等、日々のプラン実施の総評も受け持っている。3か月ごとのモニタリングやプラン作成などはケアマネージャーが担当し、毎月のカンファレンスでも入居者の情報を共有している。日々の実施を通してケアプランを周知し、今年度から医師からの意見も反映し、サービス担当者会議の議事録にも記録するようになった。	居室・衣類・ミーティング時の状況報告等を担当制にされているが、次年度からはプラン、モニタリングなども、担当制にして、意識を高め職員のレベルアップに取り組まれることに期待したい。また、担当者会議に医師などからの意見反映は出来ているので、家族とも年に1回程度、更新時などに参加してもらって開催されることが望まれる。

H26自己・外部評価表(GHアソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は記入し、職員間で情報を共有できるよう、申し送りノート、対応変更ノートを準備し、記録をしっかりと執るようにしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	午前、午後に限らず、落ち着かれない行動、帰宅願望の強い利用者に対し、個別対応し気分転換を図って、外部にお連れしたり、一緒に作業を手伝って頂き、居場所を作ってあげようとしています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所内で解決できない事等は利用者在住の包括と連携を持ち、連絡、相談しています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の掛かりつけ医に情報を電話また、書面で報告し、適切な指導を貰っています。	以前からのかかりつけ医のを継続されている方もいるが、施設の提携医に変わられる方が多い。提携医の往診が2週間に1回あり、外部のかかりつけ医への通院は家族が支援し、難しい際には事業所が支援している。家族とは、口頭やメモの受け渡しで情報を共有し、職員とは、伝達ノートで共有する。常勤の看護師がいて、緊急時は、提携医からいつでも指示を受けられるように連携できている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にいつでも医療についての助言をもらえるような連携システムをとっています。休みの場合も申し送りノートにて職員間の情報把握に努めています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者のキーパーソン、家族に情報を共有し、連絡をとりながら、退院にむけて病院関係者との関係づくりを行っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の重度化は今までに見られなかった行動、出来ていた事が出来なくなった時、ご家族と話し合い事業所ですることを説明し共有し支援に取り組んでいます。	今までに看取った事例もあり、家族や提携医などと相談しながら、最善の介護方法を話し合いながら対応を行った。家族と重度化になった時に、看取りの同意書を取り交わしている。提携医の24時間体制で訪問看護もあり、緊急時対応も可能である。対応時には職員と毎回話し合い、こまめに情報を共有した。今後も看取りの希望があれば事業所で出来る事をしていく方針である。	

H26自己・外部評価表(GHアソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、連絡網を用意し主治医に繋ぎ、定期的に対応の訓練に取り組んでいます。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、特に火災、地震に関して定期的に避難訓練を行っている。消火器の使い方、避難経路について日々、訓練を行っています。	年2回の防災訓練を行っている。昼の想定が多い。毎回、通報装置の業者が来て訓練を行い、消防署にも来てもらったことがあった。避難経路や通報手段のマニュアルの確認を行うこともある。AEDの設置もあり、消火器の取り扱い方もしている。2階には外階段もあり双方に庭がある為、避難はしやすい。	自治会長や民生委員など、地域の方への参加の案内や、地域合同の避難訓練など相互の協力関係が作られていくことに期待したい。また昼間の想定が多いようなので、夜間想定もされる事が望まれる。備蓄物の手配も検討されたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である、入居者様の呼び名をお名前前で丁寧にお呼びし、言葉使いに気を付けています。	ミーティングの時や、日頃のケアの中で気がついたら、その都度指導や注意を行っている。新人・中堅社員の研修を本部で行い、接遇のに関して学ぶ機会がある。個人情報保護方針の同意も家族からもらい、職員も理解しており、写真の使用も口頭で説明をして、同意を得たものをだけ使用するようになっている。排泄や入浴時の同姓介助など、羞恥心への配慮を行っている。	新人・中堅社員の研修を本部で行われているが、外部研修への参加や、研修資料回覧や内部研修での伝達研修などが行われることに期待したい
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思い、希望を言えない寡黙でおとなしい利用者に対しては、利用者様が言えるような雰囲気づくりを心掛け、利用者の背景を思い、関心の有ることを話題にします。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あくまで、利用者本位なので、利用者のペースを尊重して、希望にそって支援しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように、着こなしを褒め、全体の調和を褒める。入浴後のヘアスタイルをセットしています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事は楽しみなものなので、事前に好きな物、嫌いな物、お聞きしておき、量、塩分、超刻み食なのか美味しく、安全に、安心して食べて頂くよう、利用者に合わせて工夫しています。	メニューは、本部の管理栄養士が作り、食材を手配し、ユニット毎で職員が調理を行う。検査はユニット毎、1名がする。入居者は、お盆やお皿拭き・野菜きり・盛り付けなど出来る事は手伝わってもらっている。嫌いなものがある方等は、食材を工夫し個別に対応している。誕生日のケーキは職員の手作りである。外食や出前寿司等、敬老会などの行事食も楽しみ、おやつレクや近くの喫茶店へ軽食を食べに行くこともある。	

H26自己・外部評価表(GHアソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事の量、主食、副食の量、水分量を記録し今日の体調はどうか結び付けます。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア	自身で出来る方は見守り、職員は出来ない部分のみお手伝いしています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターン、習慣を把握し、起床時、食事前、入浴前、就寝前のトイレの声掛け、誘導を行い、習慣としています。	排泄チェック表があり1枚で全員分を管理し、自立した方には排便のみチェックを行っている。便秘がちな方も把握し、確認が取れない方には、臭いやパターンを把握して支援している。日中はトイレ誘導、夜間はPTイレを使用する方もいる。退院後紙オムツだった方が、伝達ノートで状態を共有しながら改善し、布パンツとパット使用になった事もある。介助も過度な露出をさせてドアの外で見守ったりして、プライバシーに配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通の回数を記録しているため、便秘をしているかどうか分かるので、水分補給や調理法に工夫しています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中、午後からと入浴する時を分け、利用者様の希望を尊重し、拒否される利用者にも、理由がわかればお聞きし、無理なく入って頂ける様にお声かけします。	1階は機械浴、2階は普通浴だが、1階で元気な方は普通浴に入る事も可能で、介助が必要な際は機械浴にと使い分けがなされる。時間帯は希望を聞いて、11時～16時で対応し、最低週2回は支援するようにしている。拒否のある方は時間や職員を替えて対応している。希望に応じてゆっくり入浴してもらい、ゆず湯など行事浴なども楽しんでもらっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子観察し、体調変化、体調不安が見られる利用者様には休息して頂くようベッド、ソファを準備します。宿泊される方が気持ちよく休まれるようリネンの交換を行っています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書のコピーを頂き、薬の効果、副作用も良く理解ができるよう個人ファイルの中に保存し確認できるようにしています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人にあったレクリエーションを提供するよう努める。		



H26自己・外部評価表(GHアソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外に出掛けられる様、職員で相談し、利用者様の希望も日頃から把握し、地域で良さそうな所に出かけています。	希望があれば、近くのスーパーに買い物に行ったり、車椅子で近くのコンビニなど、買い物は日常に出かけることは多い。手作り弁当を持ってバスバイクや、花見、イオンモールなど、年に4回はユニット毎で、全員で外出している。意欲の乏しい方も、声かけて無理のない対応をしている。年に1回は家族参加も検討されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご家族や本人の希望により施設で預かっている入居者と少額ですが、お金を所持している入居者もおられます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話できる方は電話を掛けて貰い、手紙が書ける方には葉書や、便箋の用意をしています。携帯電話を所持されてる入居者もおられます。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温の変化に合わせてエアコンの調整、加湿器、扇風機、床暖房の利用を工夫しています。	リビングの両側を、中庭と裏庭で囲まれており、緑も豊かで心が休まる環境である。ウッドデッキでゆったり眺めることが出来る。リビングから続いた廊下も広く、空間にゆとりがある。掲示は、玄関横の掲示板にまとめられ、生活空間は絵画など最低限に家庭的な雰囲気にはされている。トイレは3箇所。食堂やカウンターも側にあり、料理の様子も間近に伝わってくる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をされる時、気の合った人同士、お話しが進むように、配慮して席の移動を心掛けています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を希望されている入居者様のご要望にはしっかりお応えしています。	ホールから続きのフローリングの床材で、戸口は引き戸で間口も広くとられている。室内の窓は障子になっており日差しもあたたかく差し込んでいた。エアコン、押入れ、介護ベットは備え付け、棚上の収納もあり、タンスなどの使い慣れた家具を持ち込んでもゆとりのある広さである。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで段差なく、車椅子で自由に動けます。手摺りが玄関からリビング、居室、廊下、トイレ、浴室に付いています。ベッドも電動で高さ、傾度も身体に合わせてられます。		